

南町2850プロジェクト ~小田付地区 空き家・空き地の再生~

■ 歴史・蔵が色濃いまち「小田付」の今

小田付地区は、安土桃山時代に町割りが行われ、江戸時代には会津と米沢を結ぶ交通の要衝として栄えた商人の息づくまちで、多数の伝統的建物や、喜多方市の観光資源とも言える蔵が多く残る地区です。
しかし、現在は急速な人口減少による空き家(蔵)の増加が目立ち、平成23年の東日本大震災では、地区内の蔵の壁が一部崩壊するなどの被害もあり、昔から受け継がれてきた小田付らしい街並みを、どう将来に引き継いでいくかが課題となっています。

■ 「小田付」をもう一度「小田付」へ

小田付地区のまちづくりは、平成13年の東京大学都市デザイン研究室による「喜多方観光まちづくり提案」から始まりました。平成15年に「会津喜多方小田付郷町衆会」を設立した後、町衆会を中心に東京大学や喜多方商業高校(桐桜高校の前身)との様々な活動を経て、平成22年には「喜多方市小田付蔵のまち景観づくり協定」を締結するなど、精力的にまちづくり活動を進めています。
平成24年には、喜多方市が策定した「小田付地区まちづくり整備方針」を契機に、市をはじめ、官・民・学が参加した「小田付まちづくり協議会」が発足し、現在、「おたつき蔵通り街路整備事業」にあわせた街並み景観の保存と「重要伝統的建造物群保存地区」選定へ向けた活動も行っています。

■ 「小田付」再生の第一歩 ~南町2850プロジェクト~

「福島県喜多方市南町2850番地」

長い間、空き地・空き家として放置されていたこの場所は、前述の景観協定地区内にあることから、地元住民にとって悩みの種でした。

平成23年、東日本大震災で蔵の壁が一部崩壊したことをきっかけに、これ以上は放っておけないと、町衆会を中心に県立桐桜高校などの協力を得て、再生活動「南町2850プロジェクト」が始まりました。また、平成25年の大雪では、補修が続いていた空き蔵と接続する小屋が倒壊したことを受け、継続的に再生を続けていくことが必要となり、同年、翌年と、補助事業の支援を受けて活動しています。

活動範囲は、壁が崩壊した蔵(現在は絵本蔵として公開)、荒れ放題の庭、表から裏へ抜ける横道、かつて下駄屋だった店舗、表通りに面した庭…と広範囲に渡ります。このプロジェクトでは、桐桜高校生たちが地元の人や職人等のプロと一緒に、まちあるき、デザイン、施工等のワークショップを通して、「自分たちで考え自分たちで施工する」という貴重な経験を積んでいます。

こういったまちづくりに参加した経験が、まちへの意識・愛着へと変わり、人を育て、まちを活性化させる。その育った人がまた、よりよいまちづくりを進めていく…小田付再生の「まちづくり」は、これから更におもしろくなりそうです。

■ 会津喜多方小田付郷町衆会

平成15年(2003年)設立。蔵のまちで知られる喜多方の小田付地区には、現在でも土蔵を中心とする昔の街並みが残っており、今もその土蔵の多くは、店蔵・座敷蔵・醸造蔵・倉庫蔵などとして利用されている。地域を問わず、この街並み保存を目指す人々が結成した団体が町衆会であり、蔵の街並み景観を生かしたまちづくりに取り組んでいる。

現在は、市と連携し「おたつき蔵通り街路整備事業」の検討や「重要伝統的建造物群保存地区」選定に向けた活動などに取り組んでいる。

■ 福島県立桐桜高校(エリアマネジメント科・建設科)

「人口減少、少子高齢化の進展によって地方都市が抱える地域づくり、まちづくりの重要性から、将来社会に貢献できる人材を育成すること」を目的として設けられた、エリアマネジメント科を中心に、「まち育て」の観点から、会津・喜多方の歴史・伝統・文化を学ぶとともに、地域のまちづくりを考え、企画・発表・実行を通してまちづくりの楽しさを学んでいる。

【取材協力】会津喜多方小田付郷町衆会 郷頭 伊関 聡 事務担当 井上 篤



「つかってみんなペエ券」 できました!

喜多方市内のお店でお得なサービスが受けられるクーポン券「つかってみんなペエ券」が、今年も完成しました!今年から参加のお店も多数、昨年より充実度アップで出来上がりました!どうぞこの機会にご利用ください!

つかってみんなペエ券設置施設

市内観光案内所、市観光交流課ほか

(イメージ画像)

喜多方産小麦「ゆきちから」を使用した商品開発

2月24日(水)道の駅喜多方の郷において、喜多方産小麦「ゆきちから」の消費拡大を図るため、市内6事業所が作ったオリジナル商品の試食会が行われました。

この試食会は、きたかた6次産業化ネットワークと喜多方麦作組合との共同の取り組みで、これまで喜多方ラーメンの適用品として使用されてきた「ゆきちから」について更なる利活用を図るため地元産食材を活用し、パンやケーキ、ドーナツ、ガトーショコラなどのオリジナル商品を開発し、地産地消へ向けた新たな可能性を探りました。



きたかた 観光ネットワーク

きたかた
保存版

発行/喜多方観光物産協会(喜多方市観光交流課内) ☎0241-24-5200

2016年(春号) No.66

日本最大級 しだれ桜散歩道

見頃:4月下旬

蔵のまち喜多方 桜ウォーク

- 開催日** 4月23日(土) 8:30~受付 10:00~スタート
- 集合受付** 押切川公園スポーツ広場
- 料金** 事前申込 大人600円、中学生以下300円、未就学児無料(当日申込は200円増)
- 定員** 2,000名(定員になり次第〆切、定員に達した場合当日受付は行いません)
- 申込締切** 4月13日(水)
- 申込・問合せ** 喜多方市生涯学習課
TEL:0241-24-5319

※しだれ桜並木をご覧になる際は、路上駐車は絶対にしないでください。喜多方商業高校跡地臨時観光駐車場(大型車両不可)をはじめ、周辺の公共施設駐車場をご利用ください。

平成28年度 甲斐本家蔵座敷公開開始

公開期間：平成28年4月9日(土)～11月27日(日)

喜多方の大きな観光資源の一つである「蔵」。
喜多方の蔵は、用途や建築法など様々なものがあります。座敷蔵、家財蔵、醸造蔵、味噌・醤油蔵などの一般的なものから、塀蔵、厠蔵、蔵造りのお寺などの珍しい蔵もあります。なぜ、喜多方に多くの蔵が建てられたか、それは明治時代の大火の際に耐火性が認知されたことのほかに、蔵を建てないと男として認められない風潮などが挙げられます。その中でも、喜多方随一の豪華さを誇る蔵が「甲斐本家蔵座敷」です。喜多方の蔵文化を知るうえで、重要な甲斐本家蔵座敷を詳しくご紹介します。

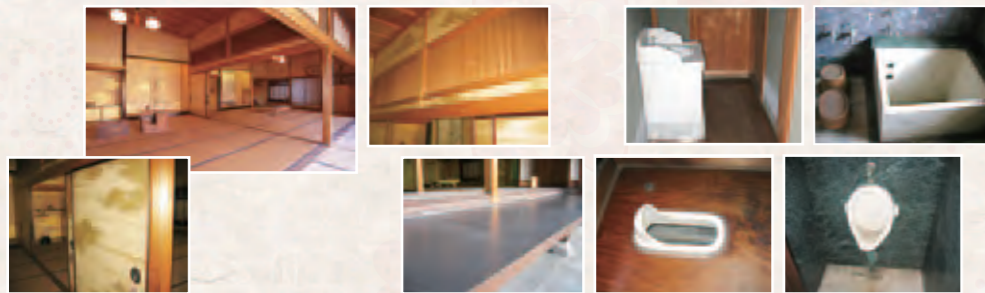
甲斐本家蔵座敷 概略

甲斐家四代目当主 甲斐吉五郎によって、大正6年(1917)から大正12年(1923)の足かけ7年の工期、推定総工費5億円(当時は15～30万円)をかけて造られた。敷地面積 約690坪。建設にあたり、建築技法や建材などを見るために京都から北海道まで、棟梁と共に名家をめぐり旅し、和洋様々な技術が用いられている。連日100人以上が作業をしていたためお茶出しが間に合わず、お茶代として一人一人に毎日10銭札が渡されていたという逸話もある。平成13年には喜多方初の国登録有形文化財に指定された。

蔵座敷

上段の間21畳、下段の間18畳、畳廊下12畳の計51畳の座敷。床柱には、檜の四方柱・鉄刀木(タガヤサン)・縞黒檀などを使用。襖・障子戸は紫檀で造られており、その重さに耐えるために敷居には檜の木が埋め込まれている。檜の一枚板をくり抜いて造られた箆(オサ)欄間も必見。縁側は、厚みが6cm、120cm四方もある檜を12枚並べて造られている。

また、客間としても使われていたことから、座敷専用の風呂・トイレがある。風呂の浴槽は大理石、壁にはジャコウ石が使われ、トイレは男女別、男性用は蛇口付きの水洗、女性用の床には檜の一枚板を使用。さらには手洗い用の洗面台まで大理石で造られている。(トイレは非公開)



黒漆喰

甲斐本家では、「烏城」と言われる総黒漆喰塗りも大きな特長の一つ。通常の漆喰に松の油煙(すず)を混ぜて造られる黒漆喰は非常に高価なもの。外壁全てにこの黒漆喰が使われている甲斐本家は、やはりその莫大な財力を窺わせる。(一般的な蔵では、扉の内側に使われる程度)



展示室

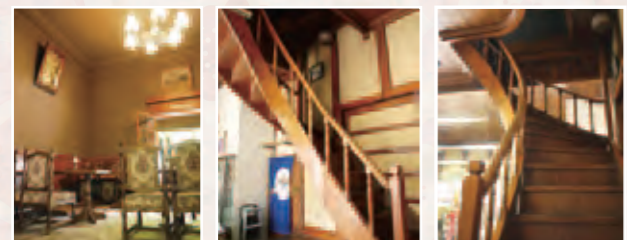
味噌・醤油の醸造蔵として使われていた場所を展示室に改装。四代目当主愛用の品などが展示されている。中には、初代当主が醸造していた清酒(銘柄:東郷)の徳利や、名家を見て旅した際に使用していた印籠や財布、舟の上で使う麻雀牌、天体望遠鏡や明治期のレジスターなどが展示されている。

入口前の展示スペースには、豆の煮炊きの際に出る煙の排出に使われた煉瓦造りの煙突や、1枚ものの御影石をくり抜いて造られた井戸、嫁入り道具のミシン台や長持などが展示されている。また、座敷の襖・障子戸に使われている紫檀の材木も置かれており、実際に持つと重さを感じることもできる。



店蔵

表通りに面している店蔵を入ると、正面に階段が見える。この木製階段の手摺部分は、1本の檜から削り出して造られている。天井部の仕上げなどを見ると洋風のデザインが用いられており、階段自体も螺旋状の吊り階段になっていることが分かる。また、隣接する部屋は「西洋室」と呼ばれ、調度品や家具なども当時のものが残されている。喫茶室として営業をしていたが、東日本大震災以降は営業を中止し、西洋室としての公開のみとしている。



その他(非公開部分等)

- ①蔵座敷の雨樋
蔵座敷の南角にある雨樋は、地中を通り庭の池に流れこむように造られている。
- ②蔵座敷の雨戸・ガラス
雨戸は屋久杉で造られており、格子部分は銅が使われている。また、座敷や母屋などの窓ガラスは、独特の歪みが特徴の大正ガラスが当時のまま残っている。
- ③電話室(非公開)
喜多方で初めて電話を引いた甲斐家。母屋には電話室があり、今でも電話番号下四桁は0001番。
- ④地下室(非公開)
店蔵には地下室がある。倉庫として使っていたほか、象牙の玉を使ったビリヤード台があったり、ダンスホールとしても使われていたとか。



ふくしまアフターデスティネーションキャンペーン開催!

平成27年4月～6月に本番を迎えた「ふくしまデスティネーションキャンペーン(以下DC)」。平成28年度は「アフターふくしまDC」と称して、同じ4月～6月の期間に大型観光キャンペーンが開催されます。喜多方市でも様々な取り組みをしていますが、その中でも注目の取り組みをご紹介します。



【観光蔵馬車の復活】

震災以降、引き馬の高齢化などに伴い運行を中止していた「観光蔵馬車」ですが、4月・5月の土日祝日限定で復活いたします。

ただ蔵馬車に乗って市内散策するだけではなく、乗車中は蔵のまちガイドによる観光案内や、お土産ラーメン・お得なクーポン券のプレゼントなど、乗車特典もたくさんご用意しています。2ヶ月間だけの限定運行ですので、どうぞこの機会にご利用ください。



【サイクリストの受け入れ】

レンタル自転車に加え、全国的に増加傾向のスポーツサイクリング利用者へのおもてなしとして、スポーツサイクリング利用者が気軽にサイクリングと市内観光を楽しむことのできるよう、サイクルハンガーの市内宿泊施設・観光施設等への設置や、市内外域な周遊を促すための自転車周遊マップを作成しています。

周遊マップは、初級・中級・上級と難易度別にコースを設定し、喜多方の観光地を周りつつサイクリングを楽しめるわかりやすい作りとなっています。春風を受けながらサイクリングを楽しみ、喜多方の観光スポットを巡ってみたいはいかがでしょうか?



【喜多方酒蔵つりずむ】

全国新酒鑑評会での金賞受賞数トップを誇る酒処 福島県。昨年の世界的なワインコンテスト「IWC(インターナショナル・ワイン・チャレンジ)」のSAKE部門では、ほまれ酒造がチャンピオンに輝くなど、喜多方の酒が今、世界から注目を集めています。

その「喜多方の地酒をもっとPRしていこう」という取り組みが「喜多方酒蔵つりずむ」です。様々なイベントでの地酒普及コーナーの設置や、酒蔵探訪のんびりウォークなどのイベントの実施とおして、喜多方の酒をもっと広くPRしていきますので、皆さまのご協力をお願いいたします!



地酒秘蔵ツーリズム

蔵のまち喜多方には、酒蔵をはじめとする多くの醸造蔵があります。街の人々に愛されて、代々受け継がれているそれらの「秘蔵」は、お酒好きの方、蔵や古民家、歴史的建造物好きの方にとって、一度は訪れてみたい処ではないでしょうか?

そんな方々のための特別企画をご用意いたしました! その名も「地酒秘蔵ツーリズム」! ほろ酔い気分秘蔵巡りを愉しんでいただくために、利き酒用の特製オリジナルお猪口と巾着をご用意いたしました! 酒蔵の他にも、味噌蔵や醤油蔵などの喜多方の歴史ある名品と出会えるポイントも設けております!

また、近年「漢字のまち」としても注目を浴びている喜多方では、200軒以上の商店の軒先に、樂篆家 故 高橋政巳氏による古代文字の桐看板が掲げられています。ご用意した問題用紙の設問にそって古代文字の謎解きも楽しんでいただけるように趣向を凝らしました。全問回答者の中から抽選で5名の方にプレゼントをご用意。また、参加者全員に、お名前を古代文字で書いた特製カードをもちろんプレゼントいたします。

喜多方の秘蔵や古代文字との出会いを通じて、皆様の旅の楽しみをさらに広げてみてはいかがでしょうか?



喜多方のディープな春を楽しもう♪ わくわく! 満開バスツアー

4月の桜に始まり、5月は菜の花、6月はひめさゆり・さつきなど、喜多方の春を彩る花々と、ディープな喜多方を巡る好評企画「美蔵花紀行」を今年も開催します! 定員20名の限定企画ですので、お申込みはお早めに!

<p>しだれ桜と太用寺ご開帳 ほまれ酒造酒蔵まつり</p> <p>開催日時 4月24日(日)10:20～15:00 集合場所 西四ツ谷観光駐車場 料金 3,980円 定員 20名(最少催行人数15名)</p>	<p>三ノ倉高原菜の花フェスタと アスパラ収穫体験</p> <p>開催日時 5月21日(土)10:20～15:30 集合場所 喜多方駅 料金 4,800円 定員 20名(最少催行人数15名)</p>	<p>さつきまつり・ひめさゆりまつりと 里山ギャラリーあとりえ山桜</p> <p>開催日時 6月5日(日)10:30～15:00 集合場所 喜多方駅 料金 3,800円 定員 20名(最少催行人数15名)</p>
---	--	---

■イベント企画・問合せ 喜多方観光物産協会 TEL:0241-24-5200 FAX:0241-24-5284
■申込・企画・実施 喜多方観光バス株 TEL:0241-21-1100 福島県知事登録旅行業 第2-312号 総合旅行業務取扱管理者 石嶋和義